

太陽への手紙

かけがえのないまち、ずつと大切にしていきたい。

これから浦幌に望むこと

「太陽への手紙」事業は、町内の小学校6年生を対象にまちづくりへの関心や理解を深める目的で実施されています。今年は4校から全40作品の応募がありました。

- ◆地元でとれたもので浦幌ブランドをつくると観光客が買い物をしてくれ、人口が増えたり町に元気とやる気が取り戻せると思う。(虹歩)
- ◆安心して生活するために十分な治療、手術を行うことができる大きな病院を建てること。医療器具やお医者さんの充実が必要。(玲奈)
- ◆浦幌の畠や自然のものを生かして活気づくりを目指してほしい。町民が協力しながら掃除して、きれいな町にしたい。(賢斗)
- ◆自然が豊かで事件や事故も少なく大人から子どもまでのびのび暮らせる環境。町内にお店を一つでも多くしてほしい。(佳南)
- ◆道であいさつをしたけど返事をしてくれなかった。町にはあいさつをすることと、あいさつに応える明るさが必要だと思う。(絆里香)
- ◆大きな遊具のある公園、農業や漁業の仕事を体験できる施設、おじいちゃんやおばあちゃん向けのスポーツ施設をつくるといい。(陽輝)
- ◆このままの浦幌でいい。緑を大切にしていきたい。自然と触れ合えるイベントがたくさんあることを色々な人に知らせたい。(菜緒)
- ◆ハイレベルなスポーツ指導を受けられるとうれしい。スポセンや野球場など立派な施設を生かし、スポーツの町にしてほしい。(雅弥)

身近な物から、グローバルなものまで様々な意見やご感想が寄せられました。共通しているのは、皆さんの方々に対する深い想い。自然や環境を守りながら



地元食材の料理を囲んだ町長と入賞者との懇談会。(11月12日開催)

ら、活気ある町にしていくために、多くのアイデアをいただきました。

今後の方々に生き方をしていきたいと思いま。

最優秀賞

「厚内漁港の危機」

厚内小学校 六年
小田 遥己くん

◆入賞者（敬称略）
○最優秀賞：小田遙己（厚内小学校）
○優秀賞：朴虹歩（浦幌小学校）、吉仲玲奈（上浦幌中学校）、佐藤絵里香（同）、吉田陽輝（同）、佐藤菜緒（上浦幌中央小学校）、吉田雅弥（厚内小学校）

今、厚内の漁港はたいへんなことになります。それは、漁師の数が減っています。

まず、漁師の数が減っているのですが、その理由はぼくが思うに、あとをつぐ子どもが少なくなっています。

次に、もつと厚内の漁港やれる魚をアピールした方がいいと思います。なぜかというと、一番最初に思いうかぶ漁港は、広尾だつたり、さけがたくさんそれるのに厚内でとられている



ことです。厚内の港を見ても、五〇代くらいの人が、たくさんいます。このままでは、厚内の港がなくなってしまいます。浦幌町から募集をかけ、港で働く人をふやしたほうがいいと思います。たとえば、三〇年づけてがんばって働いた漁師さんは、税金を半分にしたり、浦幌町のホームページに募集をかけたりなどするといいと思います。

とくに、今の時代は職につく

